

カトリック六甲教会 教会報

7

No.571



「出向いて行く教会」になるために

～現代社会におけるキリスト者の生き方と活動～

ヨセフ・アベイヤ補佐司教講演要旨

教皇フランシスコは著書「使徒的勧告 福音の喜び」の中で『福音宣教の最前線に出かけていけるように常に準備しなさい』と述べられています。これは1981年教皇ヨハネパウロ6世に始まり、2012年教皇ベネディクト16世時のシドス(世界司教代表会議)以降、繰り返されている「新しい福音宣教」の流れと言えます。

福音宣教の最前線とは？ 4つの意味があります。1つ目は、地理的意味：モンゴルなどまだキリスト教が述べ伝えられていないところは言うまでもなく、自分たちが住む中で教会のない地域をも指します。2つ目は社会的意味：これは緊急課題と言えますが、虐げられた人・疎外されている人や認められていない人たちを指します。3つ目は、科学-特に生命科学的意味：カトリックの研究が専門の研究所や大学でなされていますが、教会の見解はまだ不足で、常に課題を突き付けられています。そして最後の4つ目は、実存的意味：生きる意味を見失っている人たちが大勢います。ある人は「毎日すこしずつ死んでいだけ」と捉えています。

こうした最前線の場所や人の中に分け入り、現実を受け止め痛みを知り、対話し、私たちが彼らに知ってもらうことが大切だと言えます。どこで、誰と、どのように関わるかはそれぞれ違いますが、共通して言えることは、私たちがしっかりと彼らの心に響いているか、弟子たちがイエスを「友・見近な人」と思ったように、彼らが私たちが「友」と思っているかということです。

確かに外に向かっていくことは時に傷つき、とても疲れます。何もせずに教会や家にいる方が安全で楽です。しかし、深い信仰体験があれば、力が湧いてくるはずで、神の温かな心を感じれば、おのずと外に向かう情熱が起こることでしょう。イエスが祝福を私たちに与えて天に昇ったように、情熱をもって私たちは必要とされるところへイエスの祝福をもたらしていくことができます。そして活動する中で方向性を見失わないためにも、また支えあうためにも共同体での話し合いや祈りが大切です。聖霊が力を貸してくださいませ。

福音宣教を妨げるものは数多く世の中にあります。排他的経済構造、自身の宣教の情熱の低下、悲観的見解に加えて教会での人間関係すら妨げとなることがあります。靈性に支えられていない活動は長続きしません。信仰体験を深めること、すなわち自分の言葉で自分の信仰を語れるようになること・共同体を大切にすることがとても大切です。「できる範囲でできることをやる」につきます。仮に外に向かいて出向くことができなくても、家の中でひとりだけ信者であったとしても、日常生活の関わりの中で「信仰を持ってよかった」という姿勢があればきっと神様への道が開かれていくことでしょう。



於 6 月 2 日主聖堂 社会活動部学習会より

アベイヤ神父様のお話を伺って

「出向いて行く教会」になるために、キリスト者としての生き方を問われました。何処で、誰と、どの様に関わるか。信仰体験を深める事。自分の言葉で自分の信仰を語る事などです。

私は洗礼を受けて、40年になりますが、その間、毎日の祈りの他に、祈らざるを得ないこともありました。祈れる事は本当に助けであり、力であり、感謝です。ミサを通してのイエス様との出会いは、1週間を過ごす“かて”にもなっています。「私を委ねます」、「あなたに委ねます」と祈らねばならなかった時には、沢山の方々が私の為に祈って下さいました。力を頂き、本当に心から感謝致しました。

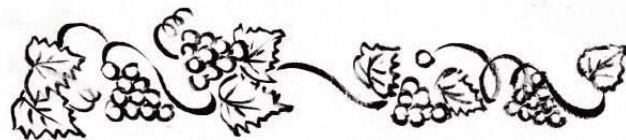
パウロ書店に、視覚障害の方に、冊子“あけぼの”を毎月、2本のテープにして届ける活動がありました。2年間の研修を経て、朗読者グループ(15人位)に参加させて頂きました。毎月、12～13分の朗読を録音し、音訳の校正を経て、編集です。生みの苦しみを味わい、出来上がった時の喜び

は例えようもありませんでした。14年間続けた活動は、“あけぼの”の廃刊により終わりましたが、そこで頂いた「絆」は宝物になっています。今は、ミサ中の朗読を通して、神様の言葉を届けさせて頂いています。喜びです。

最近のことです。ある方との出会いがありました。ホスピスに入っておられましたが、辛い、苦しいにも関わらず、それを訴えられず、神様との出会いに感謝して過ごしていらっしゃいました。暖かい手を握ってお別れした何時間か後に、息子さんとの対面を果たし、天に旅立って行かれました。死を間近に感じていても、神様への愛があれば、こんなにも穏やかでいられるのだと教えて下さいました。見事でした。未来への希望も湧きました。お出会い出来た事に感謝です。

毎月、場所と時間を空けて、御聖体を届ける私を待って下さっている方がいます。これからも、自分の出来ることを続けて行けたらと願っています。

(インマニエラ 福島きよ子)



2018年度 財務報告会

6月9日(日)10時ミサ後、信徒に対する教会の「2018年度財務報告」を行いました。

最初に会計担当の私から収入と支出についての概要を説明し、アルフレド主任司祭から収支に関わるそれぞれの解説とお願い事を話されました。

特に今後も教会は建物維持、設備更新のために積み立てが必要で、信徒の皆様からの献金の必要性を強調されました。

(会計担当 蛭田)





合同堅信式

東神戸3教会合同堅信式がアベイヤ補佐司教の司式のもと、とり行われました。



堅信式ミサに参加して

6月23日(日)神戸中央教会において堅信式が行われ参列しました。

イエスと共に生活していながら心の鈍いものであった使徒たちは聖霊降臨にふれて回心し、イエスを理解し、教えられたことの意味を悟りました。以降、使徒たちは人びとに洗礼を受けたのちに聖霊降臨の神秘にあずからせるために堅信の秘跡を授けたと伝えられています。

この日、幼児洗礼など自分が確かな自覚を持たずに洗礼を受けた子どもたちは、自分の信仰を確かめる機会を与えられて、それを受け堅信の秘跡を授けられました。これからも受堅された皆様が神様の恵みをいただいで、迷うことなく信仰の道を歩んで行けることを心から願い、祝福したいと思います。おめでとうございます。
(典礼部 河野光成)

右近巡礼ツアー 初夏の1日 堺・和歌山へ

5月25日(土)の右近巡礼ツアーは和歌山屋形町教会でアルフレド神父さまのミサに与ったのち堺の町へ戻り、南宗寺など右近ゆかりの名所をたどりました。屋形町教会では地元の方々から冷たいお茶のサービスを受け、また偶然



(屋形町教会聖堂)

にも千里ニュータウン教会のご一行とも一緒になりました。堺は南蛮渡来の文化が上陸したところ。千利休、与謝野晶子の生家などゆかりの地もあります。真夏日とも言える初夏にしては暑い一日でしたが、バス満員の一行は元気に巡り歩きました。

「納涼の夕べ」イベント参加者募集！！

応募受付:7月31日(水)まで

- ・ 参加項目は問いません。(歌、踊り、ダンスなど)
- ・ 1ステージ15分位でお願いします。
- ・ 多数応募の場合は、お断りする場合も有ります。

問い合わせ先: 納涼の夕べ実行委員会(江本、山縣、中村)または、所属している地区長まで。



読書グループ「山水会」

私たち山水会は、ちょっと本が好きでという人たちの小さな集まりです(発足して8年、現在レギュラーは10人足らず)。読書会というレベルでなく、一般高齢者でも持続可能なやり方をしています。本だけが対象でなく、カラスが白くて光る物を見つけると、口にくわえてどこかに集める習性があるように(シートン動物記)、人間もどこかで光るコトバに出会ったなら、それを持ち寄って分かち合おうということにしています。

例会2時間半の前半は、皆で予め申し合わせた共通の本を読んで来て、感想を述べ合いますが、他への批判などはしません。そして持ち寄りのおやつを食べながらの後半は、前記の光るコトバについてのほか、各自生活の中で考えたり心動かされた事とか、参考になる話や経験等を分かち合います。

これまでに会で取り上げた本としては、レクチオディビナ(聖なる読書)の類いでなく、多くは副読本的な書物です。今現在は、来住英俊神父の『気合の入ったキリスト教入門』(ドンボスコ社)のそのⅢ「イエスと歩め！」に入っております。

過去には神父様にもご理解いただき、ゲストとして参加下さったことがあります。

例会は、毎月第2金曜日午後2時～4時半頃、場所は六甲学院研修所(ザビエルハウス)。年に2度は例会を休んで食事会にすることもあります。詳細おたずねは事務所まで。(柴田章彦)



【 施設管理部 園芸係 】

春の苗はしっかりと根付き、手入れをして下さる方も増えたおかげで、美しいお花が咲き続けました。名残花を紙コップに入れてお子様連れの方々にお持ち帰り頂き、最後まで楽しんでいただけました。

6月10日、夏苗を植えました。多くの方が参加して下さり、それぞれの担当場所に夏のお庭のデザインをしていただきました。

事務所前西面の花壇にはコリウス(シソ科)を毎年植えています。色数、高低差もいろいろあり丈夫で11月末まで葉のバリエーションが映えます。

信徒の方に頂いた種から育てたホウズキを池の周囲の花壇に植えてみました。8月にはオレンジの実がなります、探してみてください。

撒水のお願いです。例年の通り梅雨明けから9月初旬まで(朝夕)

7月中旬頃、事務所に当番表を置きます。お手伝い出来る方は、ご都合の良い日を書き込んでください。よろしくお願い致します。

【 社会活動部より 】

- ・ 7月13日(土)10時:炊き出し(イグナチオホールお台所)小野浜グランドでの配食や、皆さんとの交流だけでも。
- ・ 7月21日(日)10時ミサ後:ふれあい広場(イグナチオホール)ボランティア団体出店
- ・ 7月26日(金)9時半:ともしび会(台所)施設の子どもたちへのケーキ作りを是非ご一緒に。

☆ご報告☆

東チモール、聖イグナチオ学院の浦神父さまから文房具20箱が無事に届いたというお知らせがありました。



事務所前西面の花壇には毎年コリウスを植えています。

六甲春秋

中村神父によるエッセーを、シリーズでお届けいたします。
題して「六甲春秋」。今回はその第1回です。

この間は一念発起、卒業以来はじめて六甲学院の体育祭にでかけた。開会式は9時ということで、険しい道をあえぎながら登った。何よりも驚いたのは、新しい大きなマンションが立ち並び壮大な見晴らしが大きく遮られていたことだ。かつては夏休み中の作業に狩りだされ、鶴嘴やシャベルを揮って挑んだ文鎮山は何処へ行ってしまったのか。今は学校の校舎もほとんど全て建て代えられ一新されて、かえって自分なりの思い出が断ち切られた想いで、あまり居心地がよくなかった。ここ20年近くは、専ら幼稚園の運動会ばかりを見慣れていた者にとっては違和感があり、午前部を何とか終って引き上げた、来年は覚悟して午後部を見に行くつもりだが。

六月に入って、教会はイエスの救いの出来事を毎週のように大々的に記念する。こうして2日に昇天、9日に聖霊降臨、16日に三位一体、そして23日には聖体を祝う。いずれも互いに密に関連している神秘、人間の言葉や思考を越えた神の不可思議な為さり方である。教会でミサの説教する側からいうと、なかなか骨の折れる一ヶ月である。

まず手始めにイエスが弟子たちの前で天に挙げられた昇天と、聖霊が下り満たされるという意味を少し尋ねてみよう。かつての教会の暦では、主イエスの復活後の40日目・木曜日に祝われていた。たしかに昇天はルカの福音書と使徒行伝とのみに記述され、他の三つの福音書には何の言及もない。お

そらくルカが独り、時間の流れという前後関係の中に、神による救いの出来事を個別に配置したのだろう。しかしイエスの在世時と比べてアラワになる激変は、弟子たちの立ち居・振る舞いである。杖とも柱ともすがりついていたイエスが天に去って初めて、一切の依存や追憶やあなた任せから解放され、弟子たちは「私たち」という教会の関わり・交わりを拠り所にして、地の涯てに至るまで復活の証人として福音を宣べ伝え、敵対者の攻撃・非難・迫害・残酷な処刑すらもう恐れぬ。いつも逃げ隠れしていた臆病な弟子たちは、すっかり生まれ変わり、まさに「もう一人のイエス」に生まれ変わり、成り代ったというしかない。つまりイエスの昇天による、弟子たち・キリスト者の独り立ち体験の開始である。

イエスの弟子たちのこれほどまでの大変容を可能にしたもの、それこそ弁護者である聖霊の働き・イエスの生きた霊・愛と真理の霊である。キリスト教は二千年余の伝統と教義と儀式を尊重しながらも、新しい時代の要請にいつも耳を傾け対応する若々しさを保持してきた。聖霊はいつも命の息吹としてキリスト者の深奥を揺り動かし、時代と民族と地域の制約を越えて一切の鋳型や先入観を脱する解放・神の子の自由を、いつも恵みとして頂いている。ところで私たちキリスト者は生きた聖霊の促しに開かれ応えるよう、現代人の渴望に、貧窮に、困惑にいつも敏感に感応し、一喜一憂しながら祈り・学び・聖書を絶えず読んでいるだろうか。

8月17日「納涼の夕べ」各地区担当表(案)

担当地区	出店内容
灘北1・北三田	焼きそば(鉄板もの)
灘北2・阪神	飲み物(サイダー、ラムネ、ビール等)
灘南・神戸西	食品(スイカ、コロッケ、お寿司など)
灘西・中央	カキ氷・綿菓子
東灘北1	花火(ゲーム)
東灘北2・芦屋	焼き鳥
中高生	ヨーヨー スーパーボール
教会学校	ゲーム



※東灘南地区は新年会
を担当します

【 2019 年 7 月予定表 】

日	月	火	水	木	金	土
	1	2	3	4	5	6
	福者ペトロ岐部 司祭と187殉教者				初金曜日ミサ 7:00,10:00	
7	8	9	10	11	12	13
年間第 14 主日 祈りと音楽の集い 14:00	聖書通読勉強会				山水会 14:00～16:30	典礼部会 10:00 炊き出し 10:00 教会学校終業式
14	15	16	17	18	19	20
年間第 15 主日 小教区評議会 12:00 侍者練成会 11:15～15:00	教会受付休み					教会学校キャンプ 準備会
21	22	23	24	25	26	27
年間第 16 主日 ふれあい広場 地区役員会 12:00	聖書通読勉強会			定期清掃		マザーテレサ共労者会
28	29	30	31			
年間第 17 主日			聖イグナチオ (ロヨラ) 司祭			

<p>次回8月号の発行は、7月27日(土)です。</p> <p>原稿は毎月15日ごろまでに教会受付へ直接ご 持参いただくか、FAX やメールでお願いいたし ます。皆様からの原稿をおまちしております。</p> <p style="text-align: right;">(広報部)</p> <p>http://www.rokko-catholic.jp</p>	<p style="text-align: center;">カトリック六甲教会</p> <p>〒657-0061 神戸市灘区赤松町 3-1-21</p> <p>電 話 078-851-2846</p> <p>F A X 078-851-9023</p> <p>E - メール renraku@rokko-catholic.jp</p> <p>発行責任者 アルフレド・セゴビア</p> <p>編 集 広 報 部</p>
--	--